

※「共通原稿」と①②⑤を適当に組み合わせる訴えて下さい。1段落約1分

(共通原稿) 「町内の皆さん、日本共産党です。いま安倍政権が国会で通そうとしている「戦争法案」は、日本の若者を海外の戦場に送り込み、武器をもたせて戦わせることを可能にするものです。これが通れば、日本の若者が戦争で命を落とし、他国の若者の命を奪うことが起こります。「戦争法案」を国民の力で必ず廃案に追い込みましょう。「戦争法案」反対の署名にご協力をお願いします。「戦争法案」反対の先頭にたっている日本共産党の「しんぶん赤旗」をぜひお読み下さい。

① これまでは自衛隊が海外に派兵される場合、「非戦闘地域」に限られていました。それでもイラクでは宿营地や輸送機が攻撃にさらされ、自衛隊員用のひつぎも用意され、精神的な重圧から多くの自衛隊員が自ら命を絶っています。にもかかわらず、「戦争法案」では「非戦闘地域に限る」という歯止めが取り払われました。安倍首相は相手から攻撃される可能性を認め、攻撃されれば武器を使うことも認めています。そうなれば戦闘になることは明らかです。日本の若者を絶対に戦場には送らない、この声を上げましょう。

② 「戦争法案」では、国連がかかわっていない活動にも自衛隊を参加させ、治安維持活動などの任務にさせることが付け加えられました。アフガニスタン戦争が終結したあとに、治安維持のためにアメリカやヨーロッパの軍隊が駐留しましたが、3500人も戦死者を出しています。国会で、こんな活動にも自衛隊を参加させるのかと追及しましたが、安倍首相は「参加させない」とはいませんでした。どこからみても憲法9条に反する「戦争法案」を国民の力で廃案に追い込みましょう。

③ 日本が攻撃されなくても、アメリカと一緒に海外で武力行使する。これが集団的自衛権の行使です。歴代政府がこれまで「憲法上、許されない」としてきたことを、安倍政権は180度変えようとしています。アメリカはこれまで違法な先制攻撃を何度もおこなってきましたが、日本政府はただの一度も批判したことはありません。そんな国がアメリカとともに海外で戦争に踏み出すことほど危険なことはありません。憲法9条守れ、「戦争法案」ストップの声を上げましょう。

④ 「中国や北朝鮮が攻めてきたらどうするのか」という声が寄せられます。しかし「戦争法案」は日本が武力攻撃を受けたときに国民を守るためのものではありません。武力攻撃をうけていないのに、政府の勝手な判断で、アメリカのおこす戦争に自衛隊を参加させるための法案です。むしろ中東の戦争に参加することで日本人がテロの標的になります。国と国とのもめごととは、戦争でなく話しあいでの解決することが基本です。日本に必要なのは、平和のための外交ではないでしょうか。「戦争法案」ストップの声を一緒に上げましょう。

⑤ 安倍内閣は「戦争法案」を、国会の会期を延長してでも通そうとしています。しかし、憲法学者のほとんどが「憲法違反の法案」だと批判し、これに政府はまともにこたえることができません。国会周辺でも全国各地でも「戦争法案反対」の集会やパレードが繰り返されています。世論調査では国民の8割から「国会で成立させるべきではない」との声があがっています。武力で平和はつくれません。憲法9条を守り、平和の外交こそ求められています。「若者を戦場に送らない」、この思いを一つに「戦争法案」を廃案に追い込みましょう。